

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-294453

(43)Date of publication of application : 28.11.1989

(51)Int.Cl.

B65D 51/28

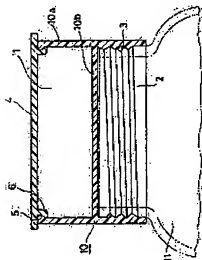
(21)Application number : 63-115327

(71)Applicant : YOUKEN:KK

(22)Date of filing : 12.05.1988

(72)Inventor : KIMURA KINICHI

(54) CONTAINER ID



(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent the quality of a content from lowering, by equipping a sealing part, which closes a container to be free to open or close, and a hollow storing part which is free to open or close.

CONSTITUTION: A lid main body 10 has a cylindrical shaped peripheral wall 10a, of which upper end and lower end are open, and a division wall 10b, which divides the inside of the peripheral wall 10a into an upper and lower two parts. And the lid main body 10 is divided into a storing part 1, which is located at the upper side, with the division wall 10b as a boundary, and in which a spoon is stored, and a sealing part 2, which is located at the lower side and seals a container for coffee. On the inner surface of the peripheral wall which forms the sealing part 2, a female thread 3, which can be engaged with a male thread formed on the outer peripheral surface of the opening of a container 11, has been formed. The top opening of the peripheral wall 10a, which forms the storing part 1, is closed by a closing plate 4 which is free

to place or remove. For the attachment of the closing plate 4 to the opening, a snap fastening by elastic deformation between a ring shaped bead 5 and a ring shaped bead 6 is applied, and a placing or taking out of a spoon in the storing part 1 is performed by a placing/removing of the closing plate 4. According to a content, a necessary accessory, etc. can always be stored at the storing part separately from a content, and the content is not damaged by the accessory, etc.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

BEST AVAILABLE COPY

[Kind of final disposal of application other than
the examiner's decision of rejection or
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

BEST AVAILABLE COPY

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-294453

⑬ Int. Cl.⁴

B 65 D 51/28

識別記号

庁内整理番号

Z-6929-3E

⑭ 公開 平成1年(1989)11月28日

審査請求 有 請求項の数 1 (金3頁)

⑮ 発明の名称 容器の蓋

⑯ 特 願 昭63-115327

⑰ 出 願 昭63(1988)5月12日

⑱ 発 明 者 木 村 欣 一 東京都板橋区赤塚新町3-21-11
⑲ 出 願 人 有 限 会 社 容 研 東京都港区六本木3-4-25 メゾン六本木
⑳ 代 理 人 弁理士 鈴江 武彦 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

容器の蓋

2. 特許請求の範囲

容器を開閉可能に閉塞するための封止部と、開閉自在の中空の収納部とを具備することを特徴とする容器の蓋。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、容器の蓋に関する。

〔従来の技術〕

一般に、コーヒーやコーヒー用クリーム等の乾燥粉末を入れた容器から適量の粉末を取出してカップに入れるためには、さじが用いられている。このようなさじは使用毎に用意することが非常に面倒なので、実際には、使用後も容器に入れておき、次の使用に供することが多い。このようにすると、使用時に付着した水分や汚れ等がさじと共に内容物に混入するので、粉末が凝固し、その風味が損われる等、品質が低下してしまう問題点がある。

ある。

このように、一般の容器では、その内容物にとって必要な備品等を容器と共に保管するためには、上記の問題点があっても便利さのために容器中に収容するのが一般的であった。

〔発明の課題〕

本発明は、上記事情を鑑みてなされたもので、その目的は、容器を開閉自在に閉塞する一般の機能はもとより、備品等も、上記問題を生じることがなく保持しておくことが可能な容器の蓋を提供することである。

〔課題を解決するための手段〕

本発明の蓋は、容器の内容物に応じて必要なものを常備することができる収納部及び容器の開閉部を開閉可能に閉塞するための封止部とを有する。収納部と封止部の間は、内容物に応じて隔壁等で完全に遮断しても、または一部を遮断しても良い。

〔実施例〕

以下に、この発明の一実施例に係わる容器の蓋を、コーヒー粉末を収容した容器の場合につい

て説明する。

図中、符号10は容器11の開口を閉塞している蓋本体を示し、上端並びに下端が開口した円筒状の周壁10aと、この内部中央に、周壁10aの内を上下にほぼ2分する隔壁10bとを有し、合成樹脂の一体成形により形成されている。この隔壁10bを傾にして蓋本体10は上側に位置し、中にさじを収納する収納部1と、下側に位置しコーヒー用容器を密封する封止部2とに分離されている。この実施例では、隔壁10bは収納部1と封止部2とを収納部1から封止部2に湿気が侵入しないように、液密並びに気密に分離するように、形成されているが、容器内に収容する物品に応じて、必ずしもこのような密封性を有さなくても良い。封止部2を形成している周壁の内面には、容器の開口部の外周面に形成された雄ねじと螺合可能な雌ねじ3が形成されている。かくして、封止部2は隔壁10bと周壁10aの下部とにより構成されている。収納部1を形成している周壁10aの上端開口部は、これに対して着脱可能な

閉塞板4により閉塞されている。この閉塞板4の開口部への取着には、周壁10aの上端開口部近くの内周面に突設された環状の突条5と、閉塞板4の下面に突設された環状の突条6と弾性変形によるスナップ結合が採用されている。この閉塞板4の着脱により収納部1内のさじの出し入れが行われる。かくして、収納部1は周壁10aの上部と、隔壁10bと閉塞板4とにより内部が中空となるように構成されている。

上記実施例において、周壁の形状、隔壁の位置並びにこれらの材質は、使用目的に応じて適宜選択され得る。また、封止部の容器の開口部への取着は、上記ねじ式に限られることなく、例えば、栓蓋式、スナップ式等でも良い。閉塞板の周壁への取着も、これと同様の手段が採用され得る。尚、収納部は、上端よりさじの出し入れを可能にしたが、他の箇所、例えば、隔壁の一部に開口を形成し、この開口に閉塞板を着脱可能に設けるようにしてもよい。この場合には、勿論、周壁の上端には、開口を形成する必要がない。

本発明の一実施例の蓋をコーヒー粉末用容器の蓋について説明したが、本発明の蓋はこの種の容器の蓋にのみ限定されるものではない。

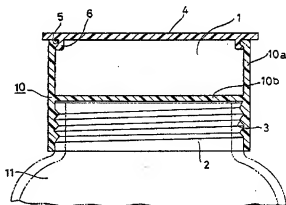
【発明の効果】

本発明の蓋は、内容物に応じて必要な錠剤等を、内容物とは別に収納部で常備することができる。このため、この錠剤等によって内容物が損傷されるようなことがない。

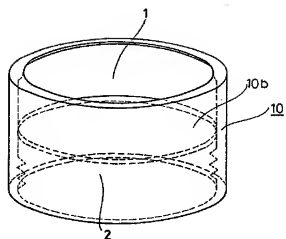
4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の一実施例を示す蓋の断面図、第2図は、閉塞板を外した状態を示す該蓋の斜視図である。

1…収納部、2…封止部、10…蓋本体、11…容器。



第1図



第 2 図